

1 カリキュラム・ポリシー

●芸術教育学科のカリキュラムは、芸術教育学科の学位授与の方針に基づき、次の方針に従って編成している。

- ① ユニバーシティ・スタンダード科目（教職関連科目群含む）と学科科目を100番台400番台科目まで順次履修することで、教育と芸術に関する知識を幅広く修得するとともに、多文化・異文化に関する知識、文化、社会、自然に関する理解を深め、芸術分野の体系の意味と自己の存在を歴史、社会、自然と関連付けて理解する。
なお、ユニバーシティ・スタンダード科目のうち『美術史』『美術理論』（美術コース）、『音楽史』『音楽理論』（音楽コース）を必修とする。
また、学科科目には音楽、および、美術・工芸のコースに関する科目をそれぞれ開設する。
- ② 学科科目の100番台には、芸術教育に関する概論や音楽および美術・工芸のそれぞれのコースに関する基礎科目を開設する。なお、芸術教育の基礎・骨格となる科目として、『芸術教育概論』を必修とする。芸術を広義に捉え、教育と結びつけて多角的に学修することで、芸術教育の社会での役割や、自らがどのように関わっていくことができるのかを考える。200番台には、コースごとに専門性の高い科目を開設し、専門知識を身につけさせる。これらの科目は卒業後の進路を見据え、あるいは興味・関心に応じて履修できるよう選択科目として開設する。300番台、400番台には、200番台での学修を基礎として、更に専門性の高い科目を開設する。専攻科目のうち、『芸術教育研究Ⅰ』、4年次に『芸術教育研究Ⅱ』『芸術教育研究Ⅲ』は必修とする。教育と芸術に関する知識や技能を総合的に活用し、多様な芸術表現の可能性と芸術活動の支援的側面を探究することで、現代の諸問題の解決に主体的に取り組み、社会に貢献する態度も身につける。
- ③ 異文化、多文化の存在を認め、協働する際に必要な知識と技能、豊かな表現力を身につけるために、理論科目だけでなく、ユニバーシティ・スタンダード科目の『国際研究』『フィールドワーク』『インターンシップ』『地域創生プロジェクト』等、社会とつながる科目を開設する。かつ、小学校の英語教育の開始に対応するため、ELF科目に加え、『Arts Education』や『Arts Criticism』など、英語で芸術を学ぶ科目を開設し、芸術に関する用語知識および表現方法を身につける。
- ④ 社会人としての使命感や責任感を身につけ、自ら積極的に行動するとともに、社会の規範やルールに従って適切に行動する態度を身につけるために、ユニバーシティ・スタンダード科目に『インターンシップ』および『教育インターンシップ』を開設する。

●学修の分野ごとの標準的な学修の内容は後述する「履修モデル」によって示されています（p.188～189参照）。

2 卒業要件

芸術教育学科では、以下の5つの条件を卒業要件として定めています。

- (1) 修業年限を満たすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
- (3) 卒業時の累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること
〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：「一年次セミナー 101」「一年次セミナー 102」「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」
〈必修選択科目〉 人文科学科目群：音楽コース必修科目：「音楽史」
美術・工芸コース必修科目：「美術史」
- (5) 学科科目について、次の必修科目を修得していること
〈必修科目〉 音楽コース必修科目：「音楽理論」
美術・工芸コース必修科目：「美術理論」
音楽コース、美術・工芸コース共通：「芸術教育概論」「芸術教育研究Ⅰ」「芸術教育研究Ⅱ」「芸術教育研究Ⅲ」

3 履修上の留意事項

- 「芸術教育研究Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」は、理論と実技を合わせた芸術教育研究を行います。これらの科目を履修するためには、2年次終了時のガイダンスに出席し、学科で定めた専門分野の中から自分の希望する分野を選択します。

4 取得可能な免許および資格

- 芸術教育学科では、所定の科目の単位を修得し、また所定の条件を満たすことで、次の免許あるいは資格を取得することができます。

■教育職員免許状

■音楽コース：

中学校教諭1種免許状（音楽）および高等学校教諭1種免許状（音楽）

■美術・工芸コース：

中学校教諭1種免許状（美術）、高等学校教諭1種免許状（美術）、高等学校教諭1種免許状（工芸）

■音楽コース、美術・工芸コース共通

中学校もしくは中・高等学校の教員免許と併せて、小学校教諭2種免許状の取得が可能です。別途ガイダンスがありますので、取得希望者は必ず出席してください。

*詳細は「教職課程受講ガイド」で必ず確認してください。

■学芸員

本履修ガイドp.230～231の「学芸員」を参照してください。

■その他の資格および修了証

本履修ガイドp.221の「取得できる各種資格・修了証等一覧」を参照してください。

*複数の免許・資格・修了証の同時取得については、可能なものとそうでないものがあります。詳細は随時行われるガイダンスの内容を参照してください。

5 教職課程受講継続条件

- 芸術教育学科では、教職課程の受講継続に際して次の条件を定めています。この条件を満たすことができない場合は、教職課程を継続して受講することはできません。*1

学 年	学 期	受講継続条件	実 習
1年次	春	●入学後に実施される「教職課程受講ガイダンス」に出席の上、受講申請書を期日までに提出していること。	●参観実習
	秋	●終了時（全科目）の累積GPAが2.5以上であること。 ●終了時に、学科が定めた「教職適性判定試験」（実技・個人面接・筆記を含む）に合格していること。 ※学科の定める継続判定条件を満たせず、継続が不可となった場合、次年度に判定を受けることにより継続可とする。	
2年次	春	●終了時（全科目）の累積GPAが2.5以上であること。 ●終了時に、学科が定めた「教職適性判定試験」（実技・筆記・模擬授業・集団討論を含む）に合格していること。	●介護等体験
	秋	●終了時（全科目）の累積GPAが2.5以上であること。	
3年次	春	—	●教育実習（中・高） *2
	秋	●終了時（全科目）の累積GPAが2.5以上であること。	
4年次	春	—	●教育実習（小） *3
	秋	—	

*1 その他教職課程受講に関する詳しい内容は、別冊「教職課程受講ガイド」にて確認してください。

*2 「教育実習（中・高）」を履修するためには、次の3つの条件を満たしていることが必要です。

①「教育実習」「教職実践演習」以外の「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目を修得済みであること。②「教科及び教科の指導法に関する科目」から、音楽コースの学生は「音楽科指導法ⅠおよびⅡ」、美術・工芸コースの学生は「美術科・工芸科指導法ⅠおよびⅡ」「美術科指導法Ⅰ」を修得済みであること。③「教育実習（事前指導）」に合格していること。

*3 「教育実習（小）」を履修するためには、次の4つの条件を満たしていることが必要です。①教育実習（中・高）の評価が「F」でないこと。②教職課程受講継続条件を満たしていること。③「小学校特別課程履修」の科目のうち8科目16単位以上を修得済みであること。④「教育実習（小）事前指導」に合格していること。

6 芸術教育学科 履修モデル

- 芸術教育学科では、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに従って、以下の3つの履修モデルを設定しています。各自これらの履修モデルを参考にして、必修科目（●がついたもの）を含んだ履修可能な科目の中から、自身の学修上の目標に到達するためにはどのような科目を選択すべきかを熟考したうえで履修してください。

履修モデルA：中学校教諭1種免許状（音楽/美術）と小学校教諭2種免許状

履修モデルB：中学校教諭1種免許状（音楽/美術）と高等学校教諭1種免許状（音楽/美術/工芸）

履修モデルC：学芸員

履修モデルA：中学校1種（音楽/美術）・小学校2種

中学校教諭1種免許状（音楽/美術）と小学校教諭2種免許状（小2免）を取得することを目的とするモデルです。義務教育課程において、小・中連携の教育が目指されています。中学校免許を取得することを前提とした、「小学校課程特別履修」が可能です。

学期	100番台科目		200～400番台科目		400番台科目	教 職		実習の流れ
	音楽	美術	音楽	美術		中・高	小2	
1 年次	春	●芸術教育概論 ソルフェージュ 鍵盤楽器基礎Ⅰ 管・打楽器基礎	●芸術教育概論 デザイン基礎 彫刻基礎 ドローイング			教育原理 日本国憲法		(事前指導)
	秋	声楽基礎 弦楽器基礎 鍵盤楽器基礎Ⅱ	絵画基礎 工芸基礎			教職概論 ELF101～402		参観実習
2 年次	春			合奏 伴奏法 鍵盤楽器Ⅰ 音楽科指導法Ⅰ	映像メディア表現基礎 絵画Ⅰ 彫刻Ⅰ 美術科・工芸科指導法Ⅰ		学習・発達論 教育の制度と経営 教育の方法と技術（中・高）	(事前指導)
	秋			合唱 鍵盤楽器Ⅱ 音楽科指導法Ⅱ	絵画Ⅱ 西洋美術史B 美術科・工芸科指導法Ⅱ		体育 特別活動の理論と方法（中・高） 総合的な学習の理論と方法（中・高） 特別支援教育	*小2免の履修方法に関しては、別途ガイダンスに必ず参加し、詳細を確認してください。 介護等体験
3 年次	春			指揮法 作曲法 和声学 芸術表現演習	鑑賞教育理論（美術） 芸術表現演習 工芸Ⅰ 美術科指導法Ⅰ		道徳教育の理論と方法（中） 教育課程編成論（中・高） 教育相談の理論と方法（中・高） 特別活動の理論と方法（中・高）	(事前指導)
	秋					●芸術教育研究Ⅰ 美術科指導法Ⅱ	生徒・進路指導の理論と方法（中・高） 教育実習（中・高）	教育実習（中）
4 年次	春			鑑賞教育理論（音楽）		●芸術教育研究Ⅱ		(事前指導)
	秋			日本音楽史		●芸術教育研究Ⅲ 感性教育論	教職実践演習（中・高）	教育実習（小）

履修モデルB：中学校教諭1種免許状（音楽/美術）・高等学校教諭1種免許状（音楽/美術/工芸）

中学校教諭1種免許状（音楽/美術）と高等学校1種免許状（音楽/美術/工芸）を取得することを目的とするモデルです。履修モデルAと比較し、よりいっそうの教科専門性を高めることのできるモデルになっています。また、中・高連携の教育が目指されていますので、これに関連した科目選択となっています。

学期	100番台科目		200～400番台科目		300～400番台科目	教職	実習の流れ
	音楽	美術	音楽	美術		中・高	
1年次	春	●芸術教育概論 ソルフェージュ 鍵盤楽器基礎Ⅰ 管・打楽器基礎	●芸術教育概論 デザイン基礎 彫刻基礎 ドローイング			教育原理 日本国憲法	(事前指導)
	秋	声乐基礎 弦楽器基礎 鍵盤楽器基礎Ⅱ	絵画基礎 工芸基礎			教職概論 ELF101～402	参観実習
2年次	春		伴奏法 鍵盤楽器Ⅰ 声乐Ⅰ 音楽科指導法Ⅰ	映像メディア表現基礎 絵画Ⅰ 工芸Ⅰ 図法・製図 美術科・工芸科指導法Ⅰ		学習・発達論 教育の制度と経営 教育の方法と技術(中・高)	(事前指導)
	秋		合唱 鍵盤楽器Ⅱ 声乐Ⅱ 音楽科指導法Ⅱ	絵画Ⅱ 工芸Ⅱ 工芸史 美術科・工芸科指導法Ⅱ		体育 特別活動の理論と方法(中・高) 総合的な学習の理論と方法(中・高) 特別支援教育	介護等体験
3年次	春		音楽科指導法Ⅲ 指揮法 作曲法 合奏 和声学 芸術表現演習	鑑賞教育理論(美術) 西洋美術史A デザインⅠ 芸術表現演習 美術科指導法Ⅰ		道徳教育の理論と方法(中) 教育課程編成論(中・高) 教育相談の理論と方法(中・高) 特別活動の理論と方法(中・高)	(事前指導)
	秋		Theory and PracticeⅠ	デザインⅡ 日本美術史B	●芸術教育研究Ⅰ 感性教育論 美術科指導法Ⅱ 音楽科指導法Ⅳ	生徒・進路指導の 理論と方法(中・高) 教育実習(中・高)	教育実習(中)
4年次	春		鑑賞教育理論(音楽) 西洋音楽史 Theory and PracticeⅡ	デザイン理論 東洋美術史 日本美術史A 彫刻Ⅰ	●芸術教育研究Ⅱ		
	秋		日本音楽史 Research and Practice	工芸理論 彫刻Ⅱ インターンシップ	●芸術教育研究Ⅲ 民族音楽概説	教職実践演習 (中・高)	

履修モデルC：学芸員

学芸員資格を取得することを目的としたモデルです。幅広い表現活動の理解、理論的な思考の育成を目指しています。教育力や英語力が求められるため、これらを強化する科目の修得が望まれます。

学期	100番台科目		200～400番台科目		300～400番台科目	資格
	音楽	美術	音楽	美術		学芸員
1年次	春	●芸術教育概論 ソルフェージュ 鍵盤楽器基礎Ⅰ 管・打楽器基礎	●芸術教育概論 デザイン基礎 彫刻基礎 Arts Education A ドローイング			
	秋	声乐基礎 弦楽器基礎 鍵盤楽器基礎Ⅱ	絵画基礎 工芸基礎 Arts Education B			
2年次	春		伴奏法 鍵盤楽器Ⅰ 声乐Ⅰ	映像メディア表現基礎 絵画Ⅰ Arts Criticism		博物館概論 生涯学習概論
	秋		合唱 鍵盤楽器Ⅱ 声乐Ⅱ	絵画Ⅱ Theory and PracticeⅠ		博物館資料論 博物館教育論
3年次	春		指揮法 作曲法 合奏 和声学 芸術表現演習	鑑賞教育理論(美術) 西洋美術史A 彫刻Ⅰ 芸術表現演習 Theory and PracticeⅡ		博物館展示論 博物館資料保存論
	秋		日本音楽史 Theory and PracticeⅠ	彫刻Ⅱ 西洋美術史B Research and Practice	●芸術教育研究Ⅰ	博物館経営論 博物館情報・メディア論
4年次	春		鑑賞教育理論(音楽) 西洋音楽史 Theory and PracticeⅡ	デザインⅠ 日本美術史A	●芸術教育研究Ⅱ	
	秋		Research and Practice	デザインⅡ 日本美術史B	●芸術教育研究Ⅲ 民族音楽概説	博物館実習